

講義名	専門基礎演習(経)			授業形態	
担当教員	平越 裕之	開講期・曜日・時限	前期 木曜日 1時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

1年次の「気づきの教育」を経て探索している「なりたい自分」の実現に向けて、自ら選択した学部・学科・コースでの2年次以降の学びに円滑に移行できるよう、専門科目を学ぶ際に求められる基礎的な能力・技能のさらなる向上を図ることを目的とする。
「考える学習型」授業や研究演習に積極的・主体的に参加し、課される課題に適切に取り組む上で求められる、汎用的な能力・技能を育成するとともに、学部・学科の特性に応じた能力・技能の育成を図る。
これらを通じて、本学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき5項目の資質・能力を身につけた人材（「ネアカのひびへこたれず」の精神をもった人材）知識を知恵に転換することができる。論理的思考力を持った人材 創造力（新しい視点と豊かな発想）を持った人材 自主・自立の精神を持った人材 仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材）となるための確かな基礎を築く。

到達目標

- ・「考える学習型」授業や研究演習に積極的・主体的に参加し、課される課題に適切に取り組む上で求められる、文書作成能力、プレゼンテーション能力等を含む基礎的なコミュニケーションの能力・技能を身につけることができるようになる。
- ・学部・学科の専門分野、研究演習の研究対象分野に応じて必要とされるレベルで様々な情報ツール（文書作成、プレゼンテーション等のツール、新聞、文献等の情報検索）を活用できる能力・技能を身につけることができるようになる。
- ・ある程度専門的なテキスト（文章）を読める基礎知識、それらを理解して要約・発表等ができる能力を身につけることができるようになる。
- ・次期以降に展開される専門ゼミ（「研究演習Ⅰ」）の位置づけを理解し、将来の「なりたい自分」の実現に向けて、それに即した適切な専門ゼミを選択できるようにする。

提出課題

経済学部の専門基礎演習は、第1回～第8回と第9回～第15回に区分される。
第1回でのガイダンスを踏まえ、第2回～第7回では、専門基礎演習担当の経済学部所属教員がそれぞれ専門分野についてのミニ講義を行い、その中で「研究演習」（通称「ゼミ」）を開講する教員はゼミについての説明を行う（第7回は動画による説明となる）。これらの受講を通じて、受講生は経済学部の専門教育についての見通しを得るとともに、内容をきちんと理解したうえでゼミを選択できるようにする。また、ノートテイキングとそれをもとにしたまとめ作成ができるようになる。そのため、毎回ワークシートの課題を課す。
第8回は、研究演習 第1次募集申込書作成状況を確認し、ゼミ選択の交流をおこなう。また、第8回までの専門基礎演習の内容を振り返りワークシートの課題（アンケート）を課す。
第9回～第15回は、クラス別に能力・技能の向上と育成のための演習を行う。提出課題は担当教員により異なる。本クラスでは図書館活用演習、伝達ゲームによるコミュニケーション演習、ひとり立ちのための基礎知識に関する学び・調べ・ディスカッションの演習を行い、図書館活用演習では課題ファイルの送信、伝達ゲームによるコミュニケーション演習とひとり立ちのための基礎知識に関する学び・調べ・ディスカッションの演習では時間内のワークシートの完成チェックを課題提出課題とする。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

第1回～第8回のワークシートについては、担当教員による確認等を経て受講生に適宜コメントする。
第9回～第15回の提出課題に対するフィードバックは担当教員により異なる。本クラスでは課題ファイルとワークシートに対して適宜コメントする。

評価の基準

第1回～第8回のワークシート 8/15、第9回～第15回の課題 7/15の割合で評価する。
なお、インフルエンザ、新型コロナウイルス、ノロ、アデノ等の学校保健安全法規定の出席停止となる伝染病、急引き、通学電車の運休（いずれも要証明）での欠席の場合は、可能な限り早く連絡したうえ、後日欠席届を提出することにより、「出席すべき回数」から減じる（ただしこれらの欠席も含め全欠席回数が5回以上の場合は単位取得不可）。

履修にあたっての注意・助言他

この科目の到達目標を達成するため、毎回出席し、課題を提出するまたはワークを完成させる必要がある。
資料や課題については、キャンパスクロス、またはRYUKA Portal を通じて配信することがある。また、メールでの連絡もありうる。こまめに確認し、指示に従うこと。

教科書

.使用しない。					
---------	--	--	--	--	--

参考図書

.必要に応じて随時紹介する。					
----------------	--	--	--	--	--

その他

資料は、必要に応じて演習中に配布するか、事前にキャンパスクロス、またはRYUKA Portal を通じて配信する。
専任教員の場合は、ダウンロードし、印刷するなど、演習に向けて準備すること。
参考文献は、必要に応じて随時紹介する。

授業計画

1. 専門基礎演習の運営方針説明、自己紹介など
・復習：動画「ゼミ選択に向けて」を視聴し、ワークシートを作成する、また同じクラスのメンバーを顔に入れる（4時間）
2. 3名の教員（内山先生、三谷先生、早越）のミニ講義を受講し、ワークシートを作成する
・本習：事前に配付される資料を目を通し、予習する（2時間）
・復習：受講したミニ講義を振り返り、ワークシートを作成する（2時間）
3. 3名の教員（羽森先生、植松先生、竹内先生）のミニ講義を受講し、ワークシートを作成する
・本習：事前に配付される資料を目を通し、予習する（2時間）
・復習：受講したミニ講義を振り返り、ワークシートを作成する（2時間）
4. 3名の教員（中島先生、伊藤先生、森澤先生）のミニ講義を受講し、ワークシートを作成する
・本習：事前に配付される資料を目を通し、予習する（2時間）
・復習：受講したミニ講義を振り返り、ワークシートを作成する（2時間）
5. 3名の教員（森脇先生、上原先生、津田先生）のミニ講義を受講し、ワークシートを作成する
・本習：事前に配付される資料を目を通し、予習する（2時間）
・復習：受講したミニ講義を振り返り、ワークシートを作成する（2時間）
6. 3名の教員（丸山先生、関先生、村上先生）のミニ講義を受講し、ワークシートを作成する
・本習：事前に配付される資料を目を通し、予習する（2時間）
・復習：受講したミニ講義を振り返り、ワークシートを作成する（2時間）
7. 4名の教員（仲間先生、三原先生、吉川先生、後藤先生）のミニ講義動画を視聴し、ワークシートを作成する
・復習：受講したミニ講義動画を振り返り、ワークシートを作成する（2時間）
8. 研究演習 第1次募集に向けて、ゼミ選択の交流、申込書作成状況の確認をおこなう
・本習：演習での議論を踏まえ、研究演習 第1次募集申込書を作成し、提出する。また、それを踏まえてこれまでの専門基礎演習を振り返るアンケートに答える（2時間）
・復習：受講した活用演習を振り返り、振り返り操作することで知識を定着させる（2.5時間）
9. 図書館活用演習（図書館やメディアセンターを有効活用するための講習）9-15回のどこに入るかは現時点では不明
・本習：演習での議論を踏まえ、研究演習 第1次募集申込書を作成し、提出する。また、それを踏まえてこれまでの専門基礎演習を振り返るアンケートに答える（2時間）
・復習：受講した活用演習を振り返り、振り返り操作することで知識を定着させる（2.5時間）
10. 伝達ゲームによるコミュニケーション演習・ワークシート作成
・復習：受講した演習を振り返り、振り返り確認することでコミュニケーションの重要な点を再確認する（4時間）
11. ひとり立ちのための基礎知識その①(社会人になるための経済学)の学び・調べ・ディスカッション・ワークシート作成
・復習：受講した演習を振り返り、ワークシートを振り返り確認することで重要な点を再確認する（4時間）
12. ひとり立ちのための基礎知識その②(暮らしの生活学)の学び・調べ・ディスカッション・ワークシート作成
・復習：受講した演習を振り返り、ワークシートを振り返り確認することで重要な点を再確認する（4時間）
13. ひとり立ちのための基礎知識その③(金銭と法律)の学び・調べ・ディスカッション・ワークシート作成
・復習：受講した演習を振り返り、ワークシートを振り返り確認することで重要な点を再確認する（4時間）
14. ひとり立ちのための基礎知識その④(憲法商法)の学び・調べ・ディスカッション・ワークシート作成
・復習：受講した演習を振り返り、ワークシートを振り返り確認することで重要な点を再確認する（4時間）
15. 「卒業論文のすすめ(仮)」動画（顧問先生作成）視聴、振り返り、まとめ、これからの大学生活についての話し合いなど
・復習：全講義を振り返り、各自を復習することで重要な点を再確認する（4時間）

図書館活用演習の実施回（実施日）は講義開始後確定する予定、また内容は前後あるいは変更する場合があります。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この科目は経済学部共通科目の特別研究に位置づけられており、経済学部ディプロマ・ポリシーで述べられている「経済学の知識を幅広く修得し、総合的考察と情報処理能力に秀でた人材」となるための土台づくりを行う。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

演習形式の授業である。学生はワークシートや課題を提出し、教員がそれについてコメントする。また、学生の発表や学生間の議論を実施する。

実務経験の有無及び活用

備考

キャンパスクロス、RYUKA Portal、メールをこまめにチェックすること。
本シラバスに修正がある場合も上述の連絡方法及び講義内で速やかに連絡します。